

ごみの減量化及び資源化に向けた取り組みについて



加古川市 環境部 環境第1課

【社会的背景・基本方針】

大量消費を中心とした社会経済活動は、環境汚染や地球温暖化など、私たちの生活に大きな影響を与えています。また、焼却施設や最終処分場の能力には限界があり、ごみの処理にかかる経費の高騰も進んでいます。

豊かな自然や快適な生活を次世代に引き継ぐため、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷の低減が図られる「循環型社会」を構築するためには、ごみの減量化及び資源化が必要です。

【ごみ減量化及び資源化を推進する背景】

平成34年度から、2市2町による広域ごみ処理施設が高砂市において稼動することとなっていますが、この新施設は、環境負荷の低減や効率的なごみ処理を目指しているため、搬入する可燃ごみの大幅な減量が求められています。

【ごみ処理経費】

平成25年度実績で約30.4億円（歳出の約4%）

⇒市民1人あたり 11,379円/年

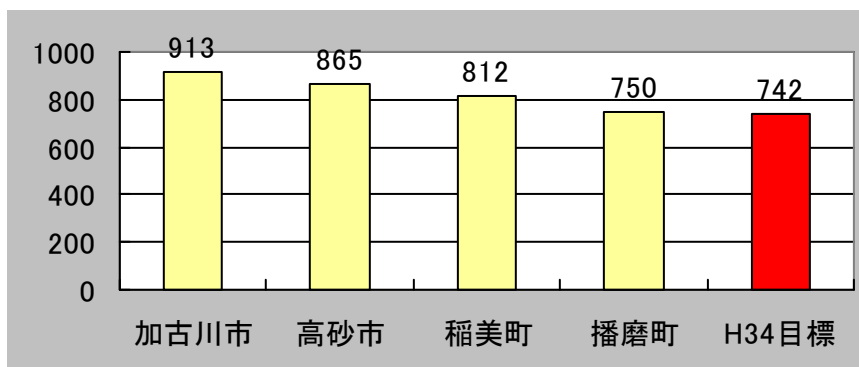
4人家族なら 45,516円/年

【減量目標】

平成33年度末までに、可燃ごみの処理量を約20%削減

※平成26年度実績：89,393 t ⇒ 目標値 71,553 t（平成33年度末）

一人一日あたりの可燃ごみ処理量（平成25年度実績）



単位:g

【これまでの主な施策】

- ・資源ごみ集団回収運動奨励金交付開始（昭和54年度～）
- ・雑がみ分別収集開始（平成22年度～）
- ・資源化センターの建設（平成24年度～）
- ・小型家電のリサイクルによる有用金属の再利用（平成26年度～）
- ・焼却飛灰のセメント原料化（平成26年度～）

【今年度実施予定の主な取り組み】

平成27年度においては、ごみの減量化及び資源化の推進の必要性について、広く周知することを目的として、主に啓発事業を実施します。そのために地域の皆様にご協力をお願いします。

ごみ減量に関する説明会の開催

主に、町内会長の皆様と保健衛生推進委員の皆様を対象に、ごみ減量に関する説明会を市内全域で行います。

ごみ集積所での啓発活動

ごみ集積所において立ち番を行い、紙ごみの分別や水切りについて啓発を行います。市職員と、主に保健衛生推進委員の皆様との協働により実施したいと考えています。

雑がみ回収袋の全戸配布

可燃ごみとして排出されている紙ごみの資源化を促進するため、雑がみ回収袋の全戸配布を行い、分別の徹底を図ります。

生ごみ水切り器による減量化の啓発

家庭の台所から出る生ごみの水分を取り除くことは、減量だけでなく、焼却施設での燃焼効率の向上にも効果的であることから、水切り器による啓発を行います。

ごみ減量についてのアイデア募集

広報等で、ごみ減量につながるアイデアを募集し、減量についての意識の高揚を図ります。

【家庭でできる具体的な取り組み】

分別の徹底による資源化の推進

紙ごみ分別の徹底、集団回収の利用などによって、可燃ごみの排出量を削減することができます。

生ごみの減量

食材等の計画的な購入や水切りの徹底によって減量することができます。また、段ボールコンポストを使って、野菜くず等を堆肥化することができます

【今後の検討課題】

レジ袋削減及びマイバッグ持参運動の推進

ごみとして捨てられるレジ袋の削減、また、原料となる石油資源の節約を目的として、マイバッグ持参運動を促進します。

剪定枝の資源化

現在は可燃ごみとして焼却処分されている剪定枝を堆肥化することにより、減量化と資源化の向上を図ります。

ごみ処理手数料の見直し

クリーンセンター及びリサイクルセンターに直接搬入される際の手数料の見直しを行います。

事業系ごみの減量化

事業系のごみについても、減量化及び資源化が進むよう啓発を行います。

粗大ごみの戸別有料収集

現在、ごみステーションで収集している粗大ごみを、玄関先まで収集に行く戸別有料収集方式に変更するよう検討しています

以上のような手段を尽くし、なお目標値に達成しない場合は、可燃ごみの有料化も視野に入れるなど、さらなる方策を検討していきます。

加古川市ごみ減量キャラクター
『一手(いって)くん』



加古川市のごみの減量化及び資源化に向けた取り組みについて



加古川市ごみ減量キャラクター『一手(いって)くん』

「棋士のまち加古川」にふさわしく将棋の駒の形で、ごみ減量のPRをしています。

加古川市 環境第1課

なぜ、ごみの減量が必要か



○ 環境汚染

大量生産・大量消費・大量廃棄による。

○ 地球温暖化

ごみの収集運搬や、焼却には二酸化炭素などの温室効果ガスの排出につながる。

○ 天然資源の枯渇

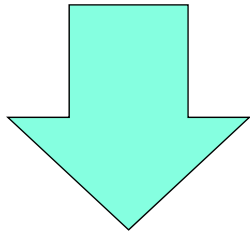
日常製品に欠かせないプラスチック製品やガソリンは、限りある資源を消費して作られている。

○ 処理施設・最終処分場不足

ごみの量が増えれば処理しきれなくなる。
また、処理施設等の維持管理には莫大な費用がかかる。

※将来のため、未来の子どもたちに豊かな環境を伝えるためには先送りできない課題となっている。

クリーンセンター(平荘町上原)



老朽化が進んでおり、また近隣
1市2町(高砂市・稲美町・播磨町)も
同様の問題を抱えている

2市2町でごみ処理施設を集約し、高
砂市に建設される広域ごみ処理施設
で平成34年度より処理開始予定

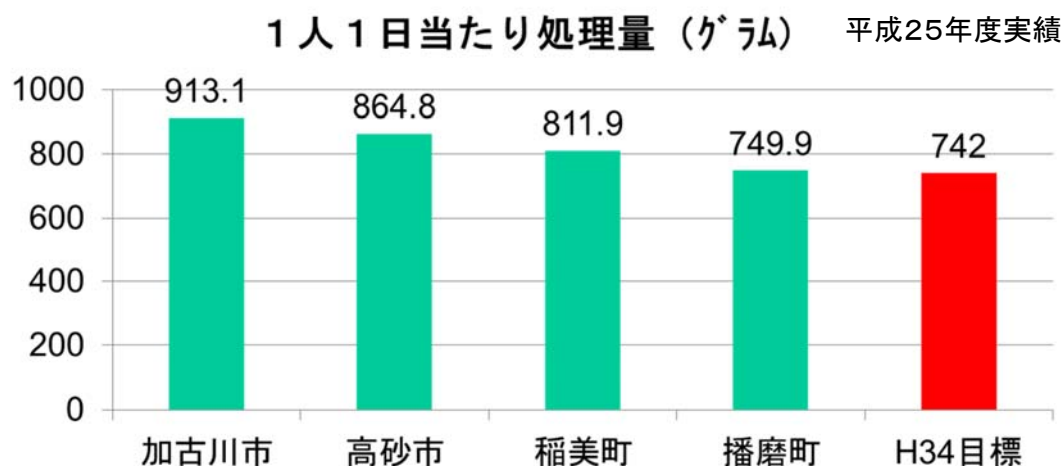
3

- ・環境負荷の低減
- ・ごみの減量化と適正処理の推進
- ・効率的、経済的なシステム

を目指した施設となるため、処理能力が抑
えられている。⇒**ごみの減量が必要**

4

2市2町の排出量比較



加古川市は20%の減量が必要

5

加古川市のごみ処理の現状

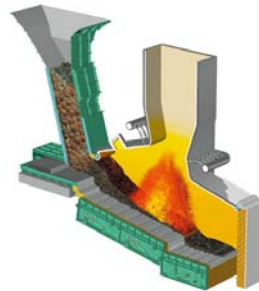
- 1 燃えるごみの処理経費
- 2 燃えるごみの処理量推移
- 3 燃えるごみの内訳

燃えるごみの処理経費

1



収集経費
約8.2億円



焼却経費
約17.5億円

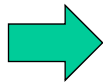


破碎経費
約3.5億円



埋立経費
約1.2億円

総経費
約30.4億円
歳出の約4%



市民1人当たり
11,379円・年

4人家族なら・・・
45,516円・年

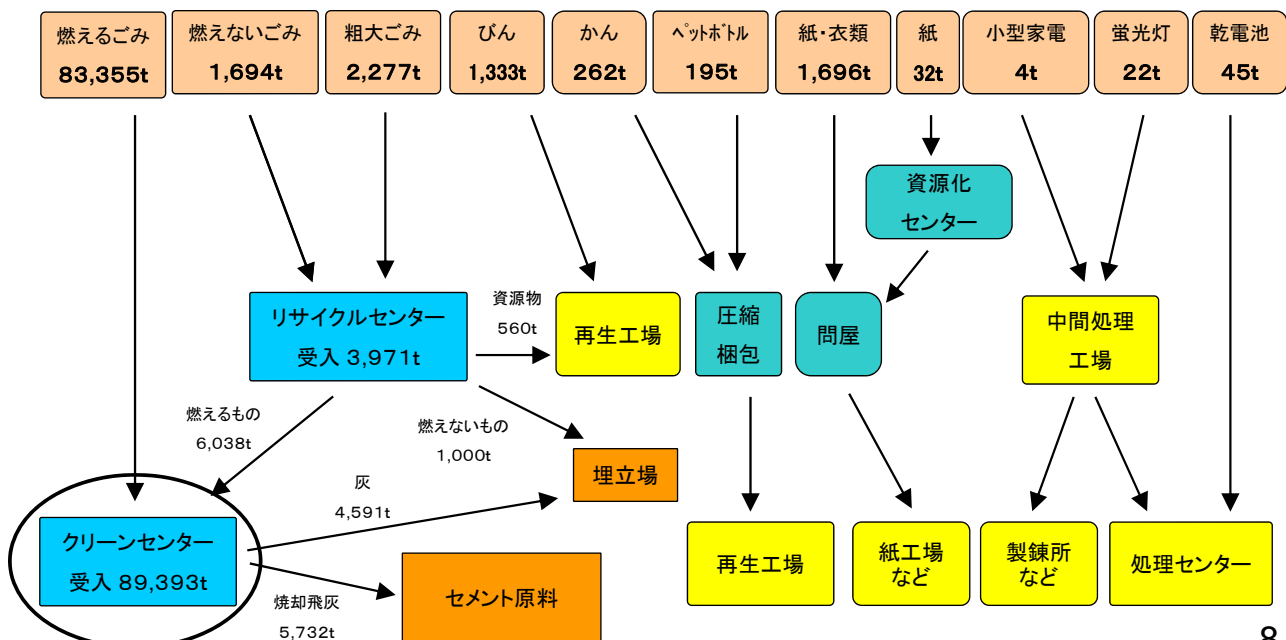
7

ごみの排出量とゆくえ

2

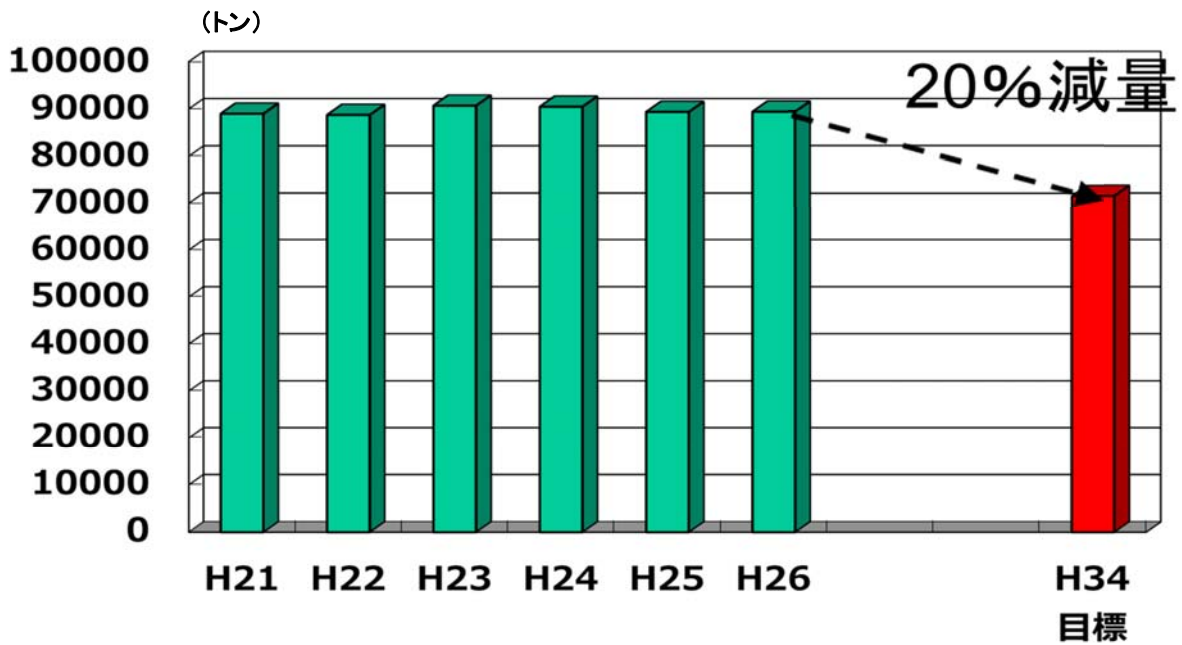
総排出量 90,915t

【平成26年度】



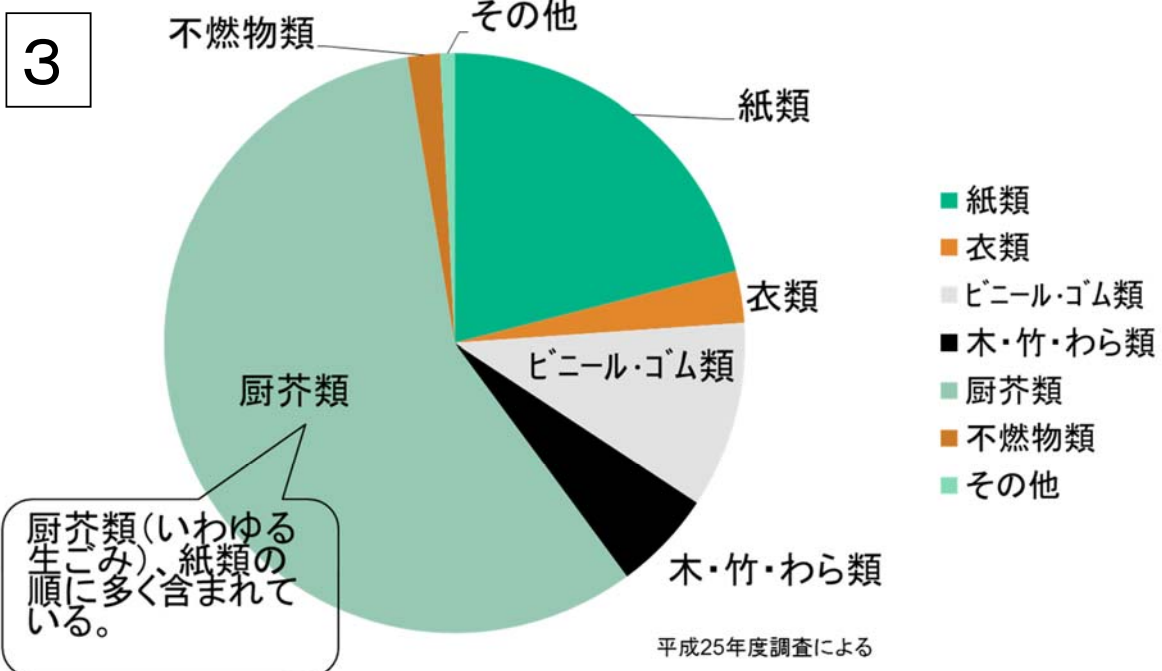
8

クリーンセンター処理量推移



9

燃えるごみの内訳



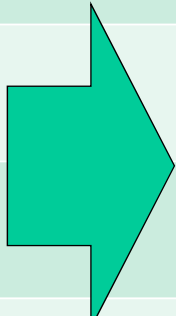
10

- 昭和54年度 資源ごみ集団回収運動奨励金開始
- 平成9年度 ペットボトル・びん3色分別開始
- 平成17年度 リサイクル情報誌「ば・と・ん」発行
- 平成22年度 蛍光灯・乾電池・紙パック・雑がみ分別
収集開始

※可燃ごみの中に『雑がみ』が多く含まれている

- ① 雑がみ(紙類)
- ② 生ごみ(厨芥類)
- ③ その他

①

古紙の種類		主な用途
段ボール		段ボール
新聞(折込チラシ含む)		新聞
紙パック (500ml以上)		トイレットペーパーティッシュペーパー
それ以外 (雑誌・雑がみ)		段ボール 菓子箱

13

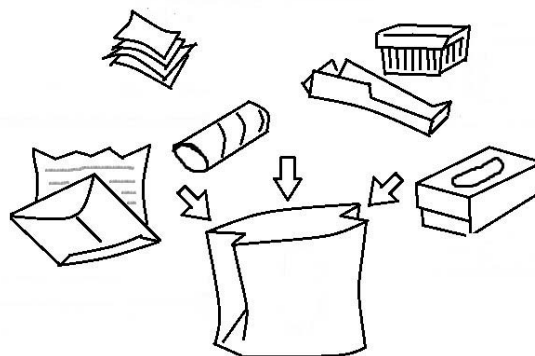
雑がみの例

投込チラシ	パンフレット	コピー紙
包装紙	紙袋	菓子箱
紙封筒	名刺	トイレットペーパーやラップの芯

14

雑がみの出し方

- ・大きな雑がみは、雑誌等と一緒にひもでくる。
- ・小さな紙は、古封筒や古紙袋 にまとめて入れる。
今年度中に回収用袋を作成し、全戸配布予定



地域の集団回収や資源ごみ(紙・衣類)の日に出してください。また、資源化センターへ直接搬入することもできます。

15

生ごみの減量

生ごみ減量のポイント

ポイント① めらさない

野菜の使えない部分は、洗う前に切り落としてめらさないようにしましょう。



ポイント② 乾かす

ぬれた野菜くず、お茶がら、ティーバッグなど水分の多いものは、三角コーナーやいらぬ紙の上などで乾燥させてから捨てましょう。



ポイント③ 水切り

三角コーナーなどに水切りネットを使い、ごみ袋に入れる前にもうひと絞りして捨てましょう。



②



ダンボールコンポスト



16

- ③
- ・レジ袋削減及びマイバック持参運動
 - ・剪定枝の資源化
 - ・ごみ処理手数料の見直し
 - ・粗大ごみ戸別有料収集
 - ・事業系ごみの減量化

有効と考えられる手段を尽くしても、さらなる減量が必要となった場合

- ・家庭系可燃ごみ有料化も視野に入れて検討

環境美化の推進

平成26年度

ごみ減量化・リサイクル促進標語

小学校の部

「こんにちは
分別すれば また会える」

中学校の部

「リサイクル
だれでもできる 恩返し」

環境月間啓発
ポスター入賞作品



目標達成のためには・・・

市民の皆様・事業者・行政の3者の協働によるごみ減量への取組が必要

ご協力よろしく申し上げます。